

## 1 本校がめざす学校像

- 1 建学の精神および教育目標（自立・協調・創造）に基づき、生徒の可能性を最大限伸ばす教育を行う。
- 2 生徒指導の充実と共に、生徒の基本的な生活習慣の確立、マナーの向上を目指す。
- 3 各コースの教育内容を充実させ、社会の情勢に合わせた特色ある教育を行う。
- 4 きめ細かい進路指導の下、生徒の多様な希望進路を実現する。
- 5 各コースの教育内容の更なる充実を目指す。
- 6 特進選抜・総合コースを中心に、大学進学実績を向上させる。
- 7 部活動を活性化させ、その活動を通じて地域社会に貢献する。

## 2 中期的目標（到達目標として）

- 1 日々の授業を充実させると共に、生徒に将来の目標を持たせ、意欲的に学習に取り組む環境を整える。
- 2 特進共通コースにおいては、生徒の基本的な生活習慣の確立、マナーの向上を目指す。また、学び直しを実施し、自主的な学習習慣を確立させる。いじめや生徒間トラブルが起きないように、協調性や社会性、正義感の強い生徒を育てる。
- 3 特進選抜コースでは、大学進学実績の更なる充実を図る。また、特進選抜コース入学者の増加と共に、特進共通コースからの転コースを加え特進選抜コースの人数を増やす。
- 4 IT 総合コースでは、高校生としての自覚をしっかりと持たせ、規律を重んじる生徒を育成する。また、コースの専門性を更に高め、情報化社会に対応出来るスキルを持った生徒の育成を図る。
- 5 環境福祉コースにおいては、保育所や幼稚園・こども園、また、高齢者施設での交流を引き続き充実させる。その中で主体的に物事に取り組む姿勢を育む。また、環境問題や社会福祉に対する高い意識を持った生徒を育成し、社会に貢献する力を育む。多様な個性への許容の心を育てる。
- 6 スポーツ健康コースでは、集団行動により、協調性の育成をめざす。また、素直で思いやりのある心を育てる。さまざまなスポーツやトレーニングに関する知識を学び、専門種目の技術を向上させると共に、自らの健康の保持増進に努める。
- 7 特進総合コースは、大学進学に力を入れると共に、多様な進路に対応するため各種検定試験や補習授業の充実を図る。指定校推薦頼みになるような、進路指導からの脱却をめざす。
- 8 グローバル化の進展に伴い、短期語学留学の実施などを通して、国際理解教育に取り組む。
- 9 本校強化クラブである吹奏楽部を中心に、運動部・文化部共に部活動の活性化を図る。また、それらの活動を通じて地域社会に貢献して行く。
- 10 学校施設・設備の充実、また老朽化した校舎・トイレの改装に引き続き取り組み、清潔・安全な学校をめざす。それに伴い、生徒の美化意識を高める。
- 11 広報の充実・強化、ホームページの更なる充実を図り、本校の魅力を積極的に発信出来る体制を確立する。
- 12 教育改革会議を立ち上げ、新カリキュラムに対応した、本校の将来像を検討する。アクティブラーニングおよび ICT 教育推進のため、ICT 教室を新設し、その教育内容を検討する。2020 年度新テスト実施に向けて、本校の取り組みを検討する。

## 【学校教育自己診断の結果と分析】

平成 30 年度の学校運営自己診断

（平成 31 年 2 月実施 教職員自己評価アンケートをもとに）

◎ 教育内容

◎ 生徒指導・支援

◎ 教員研修・資質向上

◎ 総合評価

学校協議会からの意見 [平成30年9月実施分]

出席者 堺市福田校区自治連合会長  
堺市西陶器校区自治連合会長  
堺市東陶器校区自治連合会長  
精華高等学校保護者会長  
精華高等学校同窓会長  
精華高等学校校長  
精華高等学校教頭  
精華高等学校教頭  
精華高等学校事務長  
精華高等学校教務部長  
精華高等学校生徒指導部長  
精華高等学校進路指導部長

学校運営計画表

	PLAN [重点目標]	DO [具体的取り組み]	CHECK [自己評価]	ACTION [改善の為の方針]
1	日々の授業を充実させる。	教員の授業に対する意識を高める。その方策として、生徒の授業評価の実施を検討する。研究授業を充実させ、授業公開を増やす。授業の着席指導を徹底させる。授業中の巡回を行い、不成立の授業がある場合、教員が教室に入り改善を行うこともありうる。		
	学校自己評価「授業公開状況」「学習指導において、生徒の実態に合わせた指導方法の工夫・改善を行っている」および各コースの教育内容に関する学校自己評価、また保護者評価「内容がわかりやすい充実した授業が多い」「生徒が興味・関心を持って取り組むことが出来るような授業が多い」「各コースにおける専門教科の授業内容は充実している」等を確認しながら評価する。			
2	高校生としての自覚を持たせ、基本的な生活習慣を身に付けさせる。落ち着いた雰囲気の中で、授業を受けさせる。将来を見据えた的確なコース選択をさせる。特進共通コースにおいて、学び直しを実施する。	入学直後に、オリエンテーションを2日実施する。昼食時巡回を毎日実施する。週1回のコース朝礼においては教員輪番で講話を行い、5月から早朝学習を実施する。コースガイダンスの内容を充実させ、コース選択のミスマッチをなくす。特進共通コースにおける学び直しを実施する。		
	学校自己評価、また保護者評価等を確認しながら、特進コース長とのヒアリングをもとに評価する。			
3	中学校までの復習を実施し、苦手科目を克服する。学習の習慣を身に付けさせる。授業と講座を通じて、大学受験に必要な学力を習得させる。大学進学に関する情報を提供すると共に、自ら調べる力を養成する。入試問題を数多く解き、受験に対応出来る実力を身に付けさせる。志望校に合格させる。	放課後・長期休業中の受験講座を充実させる。そのため、外部講師の派遣も検討する。早朝学習・コース合同テスト・大学見学会・進路講演会・勉強合宿等を実施する。入試対策室・広報を中心に、広報を強化し、特進選抜コース入学生の増加を図る。特進共通コースからの転コースを促すため、生徒の大学進学に対する意識を高めるよう指導する。		
	学校自己評価「生徒一人ひとりの興味・関心・適性に応じた進路選択ができるような支援体制がある」、また保護者評価「学校は進路に関する連絡や、情報提供を十分にしている」「学校は進路に関する保護者や生徒の相談に乗っている」等の満足度の結果を確認し、保護者の意見欄を参考にしながら、特選コース長とのヒアリングをもとに評価する。			
	IT総合コースでは、規律を重んじ、高校生としての自覚を持たせる指導を行う。プレゼンテーションやコミュニケーションの能力を更に向上させる教育を行う。	基本的な生活習慣の確立させ、遅刻・欠席をなくす指導をコース全体で取り組む。コンピュータに関する資格取得率100%をめざす。また、簿記検定にも取り組む。情報モラル教育を強化し、ネット関係のトラブルを未然に防ぐ。プレゼンテーションの方法を学び、コミュニケーション能力を向上させる。		

4	情報モラル教育をしっかりと行う。情報に関する専門性を高め、さらに魅力的なコースにしていく。	情報系の専門学校と連携し、専門的な講座の開講を企画・実施する。			
	6月・11月に実施される保護者懇談会における意見と、学校自己評価「情報能力育成」「情報モラル指導」、年度末の保護者評価アンケート結果および意見欄を参考にして、IT総合コース長と検討を加え評価する。				
5	高校生としての自覚を持たせ、基本的な生活習慣を確立させる。環境福祉コースの特色を活かした教科実習や活動を通じて、やさしく思いやりのある心を育む。また、環境や福祉に対する専門性を高め、更に魅力的なコースにして行く。	遅刻・欠席については実習先との関係があるので、厳しく指導する。コース朝礼において、生徒のプレゼンを実施する。保育所や幼稚園・こども園、また、高齢者施設での実習・交流を引き続き充実させる。ビオトープ実習や、無農薬野菜の栽培を通して、環境問題に対する高い意識を持った生徒を育成する。介護職員初任者研修を実施する。			
	6月・11月に実施される保護者懇談会における意見と、学校自己評価『環境教育』の項目、年度末の保護者評価アンケート結果および意見欄を参考にして、環境福祉コース長と検討を加え評価する。				
6	スポーツ健康コースでは、集団行動と協調性の大切さを意識させ、時間厳守を守らせる。コースの特色ある授業や体験実習を通じて、素直で思いやりのある心を育む。さまざまなスポーツやトレーニングに関する知識を学び、自らの健康の保持、増進に努める。	遅刻・欠席をできる限り少なくするために、保護者との連携をしっかりと行う。ゴルフ実習や、金剛登山等コース行事を通して心身を鍛え、スポーツの楽しさを学ぶ。コース講演会やテーピング実習を行い、専門的な知識を学ぶ。身体体力測定やマラソン大会などの補助役員を務め、集団に貢献する心を養う。			
	6月・11月に実施される保護者懇談会における意見と、学校自己評価「健康・食育」、「スポーツ活動、芸術文化活動を計画的に教育活動に取り入れている」、年度末の保護者評価アンケート結果および意見欄を参考にして、スポーツ健康コース長と検討を加え評価する。				
7	大学進学に力を入れる。公務員希望や就職希望など多様な進路に対応するため、各種検定試験や補習授業の充実を図る。指定校推薦頼みになるような、進路指導からの脱却をめざす。	学習習慣を確立させ、基礎学力を底上げする。また、コース独自の補習により、学習体制を強化する。希望者にはスタディサプリの活用により、放課後や家庭学習において基礎学力の向上や受験科目の勉強を積極的に促す。漢字検定や英語検定などの資格取得を積極的にめざす。新聞コラムや漢字、一般常識などを朝学において学ぶ。大学進学実績の向上と共に、専門学校や公務員・就職などの多様な希望進路を実現させる。			
	6月・11月に実施される保護者懇談会における意見と、学校自己評価、年度末の保護者評価アンケート結果および意見欄を参考にして、特進総合コース長と検討を加え評価する。				
	国際理解教育に取り	個人参加型の語学研修を実施し、成功			

8	<p>組む。</p>	<p>させる。その際、事前指導・事後指導をしっかりと行う。大阪府グローバルリーダー育成・留学促進事業に参加する。海外の学校との姉妹提携を模索し、交換留学生の制度を確立する。特進選抜コースを中心に、ネイティブの活用やオンライン英会話の実施を検討する。</p>			
	<p>学校自己評価における、「国際理解」の項目において、評価の肯定率 70 % 以上をめざす。</p>				
9	<p>強化クラブである吹奏楽部を中心に、運動部・文化部共に部活動の活性化を図る。また、それらの活動を通じて地域社会に貢献して行く。</p>	<p>本校における部活動指導の位置づけを明確にし、部活動顧問手当を拡充する。部活動推薦生徒（専願）の本校入学者数を増やすため、広報活動を更に強化する。オープンスクールの参加人数を増やし、部活動推薦生徒の入学生増加を図る。吹奏楽部・インターアクトクラブ・演劇部等を中心に、地域社会に貢献する。</p>			
	<p>学校自己評価における、「部活動」の項目並びに保護者評価「部活動は活発である」の項目において、評価の肯定率 70 % 以上をめざす。</p>				
10	<p>老朽化した校舎・トイレの改修・改装に引き続き取り組み、清潔・安全な学校をめざす。それに伴い、生徒の美化意識を高める。</p>	<p>昨年に引き続き、西校 2 階の生徒トイレを改装し洋式化する。校舎老朽化に伴う外壁工事を、引き続き行う。講話や清掃指導により、生徒の美化意識を高める。</p>			
	<p>学校自己評価における、「環境教育」の項目並びに、保護者評価「学校の設備・備品は、学習環境の面においてほぼ満足できるものである」「教室・特別教室・運動場などの施設は、活動しやすいように整備されている」「学校内は、清掃が行き届いていて、清潔である」の 3 項目において、評価の肯定率 70 % 以上をめざす。</p>				
11	<p>学校広報の充実・強化、ホームページの更なる充実を図る。</p>	<p>学校広報を強化し、本校のイメージアップを図る。そのため動画の作成を行う。ホームページを見直し、情報発信を更に充実させる。本校の斬新な広報を継続する。</p>			
	<p>保護者評価「学校のホームページは充実している」において、評価の肯定率 70 % 以上をめざす。</p>				
12	<p>2020 年の新テスト実施、また、アクティブラーニングの推進、近い将来のカリキュラム改変に向けて教育改革会議を立ち上げ、新カリキュラムに対応した、本校の将来像を検討する。アクティブラーニングおよび ICT 教育推進のため、ICT 教室を新設し、その教育内容を検討する。</p>	<p>2020 年新テスト実施に向けて、教育改革会議において対策を検討する。カリキュラム改変についても、教育改革会議において推進していく。アクティブラーニング推進については、引き続き教頭を中心に各教科若手教員を組織し研究して行く。ICT 推進のため、ICT 教室を新設し、その教育内容を検討していく。成績アップ指導のあり方、成績評価のあり方等、本校の諸課題についても教育改革会議において、学校の方向性を出す。</p>			
	<p>学校自己評価を参考に、実施状況を評価する。</p>				